

阿武隈川緊急治水対策プロジェクト

福島河川国道事務所

「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

- 令和元年台風第19号に伴う洪水により、阿武隈川では越水・溢水が発生し、本川上流部や支川では堤防決壊等が多数発生するとともに、本川下流部では大規模な内水被害が発生するなど、**流域全体で甚大な浸水被害**となった。
- 今後、**関係機関が連携し、ハード整備・ソフト対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策**を行うことにより、**浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化**を目指す。

①河川における治水対策の推進

【ハード整備】約1,840億円

- 観測史上最高水位を更新するほどの大規模な洪水により、本川・支川で越水・溢水、堤防決壊、内水氾濫等が多数発生
- 本川の水位を低下させる対策、支川における堤防強化等の治水対策を推進

＜主なメニュー案＞

- ・国・県管理河川の堤防決壊箇所等、被災した河川管理施設の「災害復旧」の推進
- ・現在 実施中の「堤防整備」等の早期完成
- ・「河道掘削、樹木伐採」等の推進、「河川整備計画」に位置づけられている「河川の水位を低下させる対策」等の順次検討・着手
- ・本川の背水影響が及ぶ支川等の「堤防強化」、「準用河川」の整備促進
- ・内水が顕著な河川等における「排水機能の強化及び耐水化」
- ・既存ダム洪水調節機能強化



98.6k 左岸堤防決壊箇所(須賀川市)

相互に
連携

土地利用や避難体制を意識した事業推進
施設整備計画を踏まえた避難計画等

【ソフト対策】

②減災型都市計画の展開

- 沿川都市の都市化の進展により低平地の新興住宅地等での浸水リスクが顕在化
- 沿川地域における住まい方、まちづくりの工夫の推進

＜主なメニュー案＞

- ・浸水リスクを考慮した「立地適正化計画」の展開
- ・支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」の作成
- ・「特定都市河川」制度に準じた流域対策(例:雨水貯留施設等)
- ・高頻度で浸水する区域の「災害危険区域」等の指定



下水道事業による雨水貯留施設の例(郡山市)

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

- 本川や支川の氾濫、内水など、地区毎に異なる氾濫形態が避難行動に影響
- 的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進

＜主なメニュー案＞

- ・支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良
- ・浸水想定区域における「町内会版タイムライン」の策定・普及、訓練の実施
- ・危機管理型水位計の活用による「地区ごとの避難体制」の構築
- ・県管理の水位周知河川及び国管理ダム下流等の「洪水浸水想定区域」の早期公表

④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

- 本川上流部では、背水が支川の氾濫にも影響
- 本川合流部周辺における支川の減災対策の推進

＜主なメニュー案＞

- ・本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」の設置等
- ・本川の背水影響が及ぶ区間に設置した危機管理型水位計と連動した地区ごとの「避難計画」の策定



本川・支川合流部(本宮市)

⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

- 地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進

- ・流出抑制・氾濫抑制の取組、住民参加型の防災訓練、マスメディアと連携した情報発信等

※具体的な対策内容等は、今後の調査・検討等により変更となる可能性があります。

「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指します。

■全体事業費 約1,840億円

■事業種別

○改良復旧事業

国：阿武隈川上流(福島県内)

全体事業費 約999億円

事業期間 令和元年度～令和10年度

国：阿武隈川下流(宮城県内)

全体事業費 約215億円

事業期間 令和元年度～令和6年度

福島県： 約 66億円

宮城県： 約 18億円

○災害復旧事業

国：阿武隈川上流(福島県内)

全体事業費 約130億円

事業期間 令和元年度～令和2年度

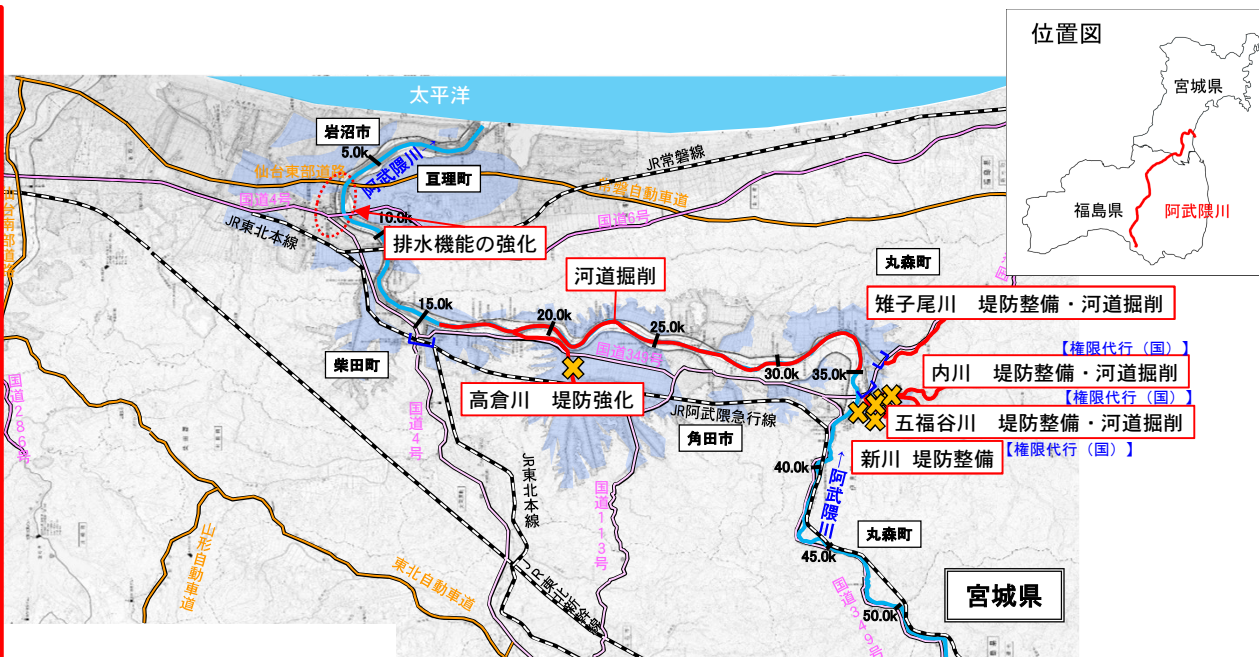
国：阿武隈川下流(宮城県内)

全体事業費 約 99億円

事業期間 令和元年度～令和2年度

福島県： 約268億円

宮城県： 約 44億円



※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

【須賀川市】 浜尾地区 堤防決壊箇所 本復旧工事

○東日本台風で決壊した浜尾地区の堤防について、6月からの出水期に備えて行っていた本復旧工事を5月30日に完了。

洪水を貯留した浜尾遊水地 (R1.10.14)



決壊の様子 (R1.10.13)



○被災直後の様子 (R1.10撮影)



○本復旧工事完了後の様子 (R2.6撮影)

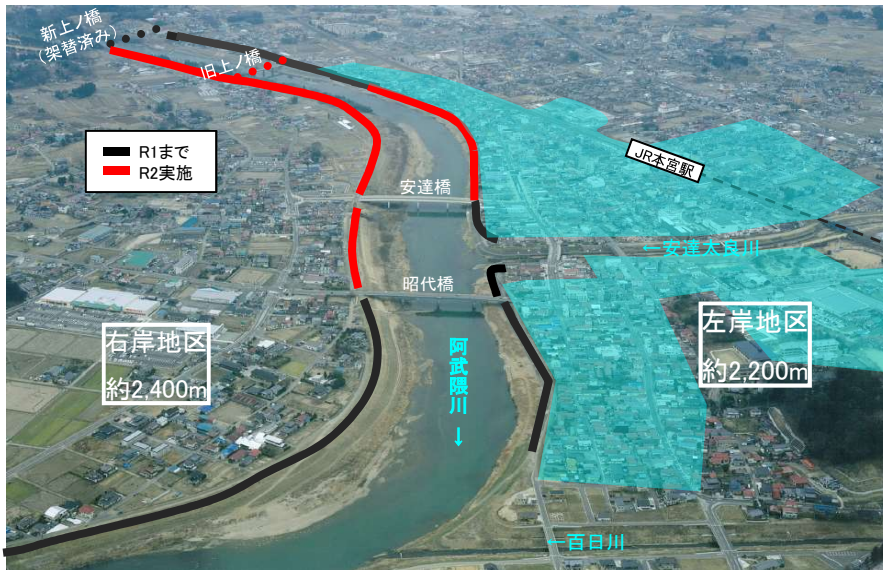


阿武隈川

阿武隈川

【本宮市】 本宮地区 左右岸築堤事業

- 令和2年6月までに嵩上げ対策を実施し、計画堤防の高さを確保。
- 引き続き、残りの築堤工事を進めるとともに、左岸地区の宅地側道路及び広場・遊歩道、樋門整備などを進め、年度内の事業完成を目指している。



大規模洪水により浸水被害が発生(令和元年東日本台風)

対策前(東日本台風前)



嵩上げ対策状況



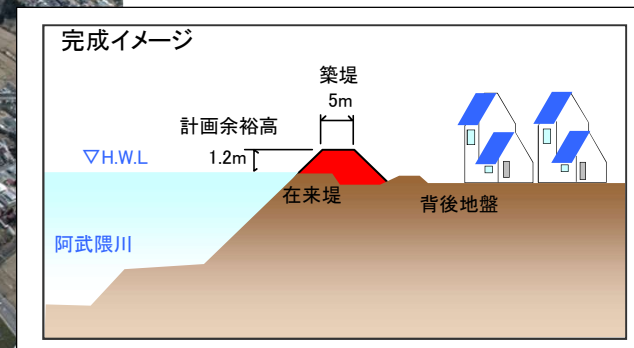
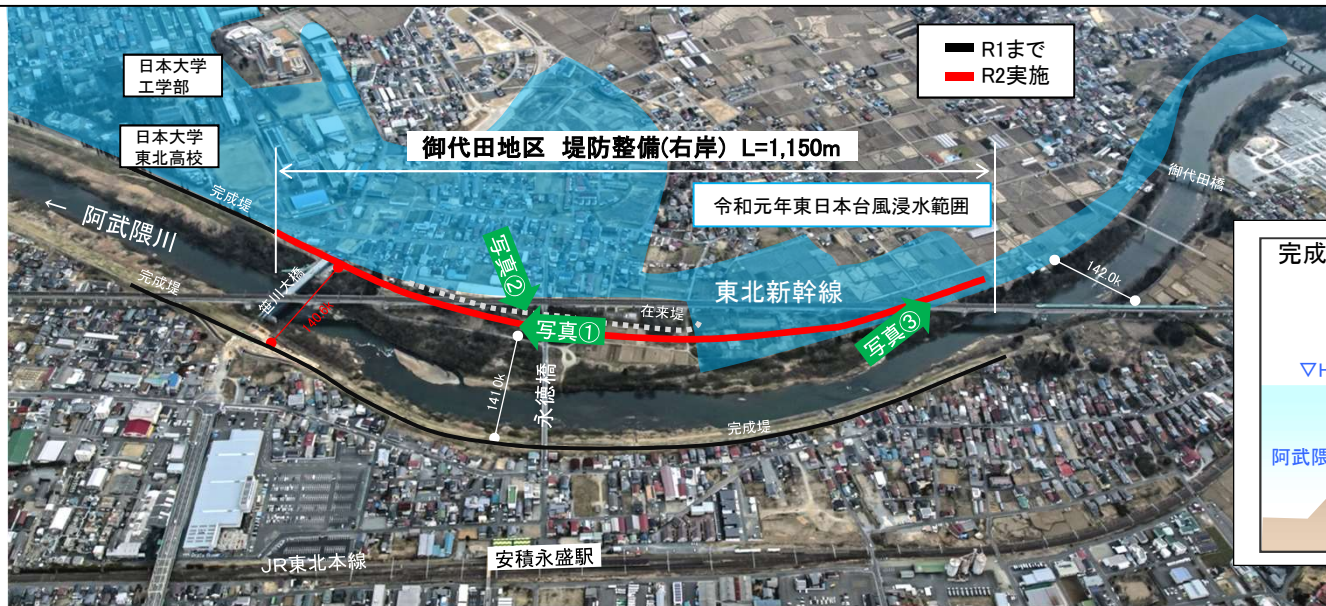
計画堤防の高さを確保
(令和2年6月中旬)

左岸地区 築堤工事完了状況



【郡山市】 御代田地区 築堤事業

- 東日本台風による浸水被害を受け、無堤区間の堤防整備に緊急着手。
- 令和2年5月までに暫定堤防を整備し、計画堤防の高さを確保。年度内完成を目指し、現在、事業実施中。



河道掘削 (例：福島市 鎌田地区)

○阿武隈川本川各地で河道掘削に着手し、現在推進中。全体計画約220万m³のうち、本年度は約3割となる約60万m³の掘削を目指し実施中。また、樹木伐採は、本年度は約45万m²を目指し実施中。



(工事状況)



河道掘削・樹木伐採 (例：郡山市 安原地区)

○阿武隈川本川各地で河道掘削に着手し、現在推進中。全体計画約220万m³のうち、本年度は約3割となる約60万m³の掘削を目指し実施中。また、樹木伐採は、本年度は約45万m²を目指し実施中。



河道掘削・樹木伐採 (例：須賀川市 釈迦堂川)

○阿武隈川本川各地で河道掘削に着手し、現在推進中。全体計画約220万m³のうち、本年度は約3割となる約60万m³の掘削を目指し実施中。また、樹木伐採は、本年度は約45万m²を目指し実施中。

大規模洪水により浸水被害が発生(令和元年東日本台風)



令和元年10月13日13時頃撮影(国土地理院)

写真①(未来大橋下流側)



写真②(未来大橋上流側)



